



むら ディスカバー農山漁村の宝 ☆第4回募集開始☆

☆募集期間☆

平成 29 年 8 月 21 日(月)まで
(他薦は 8 月 7 日(月)まで)

「ディスカバー農山漁村の宝」は、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国へ発信するものです。

このため、他の地域の参考となるような優れた地域活性化の取組を募集します。

他薦による応募も可能



対象となる取組

地域において、新たな需要の発掘・創造や埋もれていた地域資源の活用により、農林水産業・地域の活力創造につながる下記のいずれかに該当する取組です。

- 美しく伝統ある農山漁村の次世代への継承
- 幅広い分野・地域との連携による農林水産業や農山漁村の再生
- 国内外の新たな需要に即した農林水産業の実現



これまでの選定地区の声

これまでの選定された地区に対し、選定後の効果や変化についてアンケート調査をしたところ、以下のような回答がありました。

- ・マスコミに取り上げられ、来場者数が大幅に増えた。
- ・商品の知名度が上がり、前年度に比べ売り上げが増えた。
- ・全国紙からの取材や、講演依頼など PR の機会が増えた。
- ・他の企業と連携する機会が生まれ、新商品開発へと繋がった。

☆お問い合わせ先

関東農政局
農村振興部 農村計画課
電話 048-740-0480

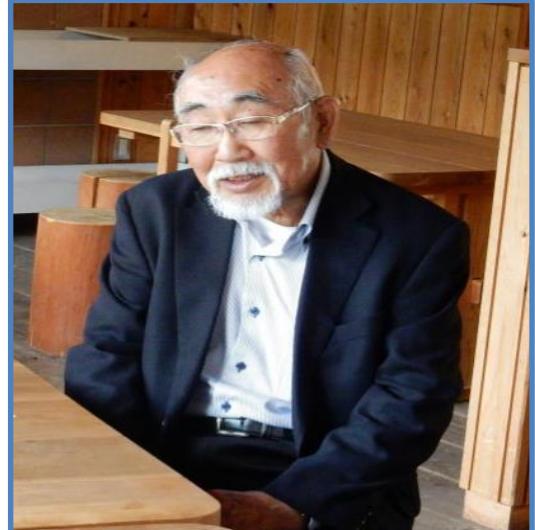
☆応募方法等

農林水産省 HP
<http://www.maff.go.jp/j/nousui/kouryu/discover.html>

飯能市で、近年被害が拡大する鳥獣被害に対し、地域ぐるみで被害に負けない農業をされている「なぐり特産品協議会」の取組みをご紹介します。

なぐり特産品協議会（斎藤代表）は、飯能市名栗地区の農家の方たちが「地域のために何かをやりたい」との思いから、饅頭（名栗饅頭）の製造販売に取り組んだことがきっかけで、平成4年に発足しました。

平成8年には、地区内で年々拡大する鳥獣被害に対し「何か出来ることはないか」「被害に負けない農業はないか」と考え、埼玉県の指導を受け比較的鳥獣被害が少ない作物とされているルバーブに注目しました。



なぐり特産品協議会 斎藤代表

ルバーブは茎を食用とする多年草で、北欧を中心に栽培されアントシアニンが多く含まれています。

現在、協議会のメンバーである農家4軒が栽培を行い、この栽培したルバーブを銅ナベでペースト状になるまで煮詰め、砂糖とレモンを加えて、ルバーブジャムを製造しています。

ルバーブジャムは、「埼玉県ふるさと認証商品」にも認証され、市内の農林産物加工直売所「やませみ」などで販売。近年の健康志向も重なり、年間に1600本を完売する人気商品の1つとなっています。



栽培中のルバーブ

名栗地区は山間地にあり規模拡大は難しいのですが、ルバーブはフランス料理の付け合せや、ジェラードの材料などとしても期待されていることから、顧客の要望に応えるため、今後も栽培を続けていこうと考えています。